

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
緩和ケア演習	2単位60時間(30コマ) 演習科目	博士前期1年次 後期開講	可・不可 「下記7.参照」
科目責任者	鳴井ひろみ		
担当者	鳴井ひろみ、木村恵美子、清水亮、高屋敷麻理子、越後優子、土川弥芳子、本間ともみ		
1. 科目のねらい・目標			
<p><ねらい> がんがもたらす苦痛症状および苦悩について、症状マネジメントモデルに基づき包括的アセスメントを行い、患者・家族の苦痛を緩和するための適切な介入方法をエビデンスに基づき検討し、薬物療法や心理的支援および理学療法的介入などの包括的アプローチを活用して提供するための能力を高める。また、多職種と協働しながら患者・家族の問題に介入するために必要ながん看護専門看護師の役割を探求する。</p> <p><目標> 1) 症状マネジメントモデルに基づき、がんがもたらす苦痛症状をアセスメントし、症状を緩和するためのケア方法を検討し提供する能力を高める。 2) 補完・代替療法の適切な活用を支援するための方法を理解する。 3) がん患者・家族が直面する倫理的課題と葛藤および倫理調整についての解決方法を理解する。 4) がんがもたらす苦悩についてのアセスメント方法および介入方法を理解し、傾聴面接の演習を通して、苦痛を緩和するためのケアを提供する能力を高める。 5) がん患者・家族への相談支援について分析・評価し、がん相談支援技術の実践能力を高める。 6) 緩和ケアチームにおいて、患者・家族に生じる問題を多職種と協働してアセスメントし介入方法を検討するとともに、チームにおけるがん看護専門看護師の役割を学ぶ。 7) がん患者のリンパ浮腫への症状マネジメントと理学療法的技術を活用した実践のための知識・技術を修得する。</p>			
2. 授業計画・内容			
1～2回： 症状マネジメントモデルとその適用 (鳴井) 3～6回： がんによる苦痛症状のマネジメント(事例検討) (鳴井・越後・土川) ・がん性疼痛、消化器症状、呼吸困難について、事例をもとに症状マネジメントモデルに基づき分析し、緩和ケアの視点から検討し、討議する。 7～8回： 緩和ケアにおける栄養管理 (清水) ・がん患者の栄養状態のアセスメント、栄養管理方法の検討(摂食障害) ・終末期の栄養状態、輸液療法 9～10回： 補完・代替療法と看護 (鳴井) ・補完・代替療法のエビデンス、看護師の役割(文献検討、プレゼンテーション) 11～13回： がん看護における倫理的問題の調整と看護援助 (鳴井・高屋敷) ・倫理的問題解決法 ・事例を用いて倫理検討し、討議する。 14～17回： 終末期がん患者のスピリチュアルペインの看護介入 (鳴井・本間) ・終末期におけるスピリチュアルペインに対する看護介入方法(文献検討) ・傾聴面接の技術演習 18～22回： 相談支援技術のロールプレイ (鳴井・本間) ・再発・進行期または終末期にあるがん患者およびその家族の相談場面についてロールプレイを実施する。(実際の臨床事例をもとに設定する) ・相談技術の分析・評価を実施し、相談支援技術を高めるための方略を検討する。 23～26回： がん医療の場における緩和ケア フィールドワーク(静岡県立静岡がんセンター) (鳴井) ・緩和ケアチームの活動に参加し、がん診療施設の緩和ケアの実際を知るとともにチームにおけるがん看護専門看護師の役割を学ぶ。 ・緩和ケアのチーム体制と多職種との協働のあり方について、がん看護専門看護師の役割・機能から検討する。 27～30回： がん患者へのリンパ浮腫ケアの症状マネジメントと実践法 (木村) ・がん治療に関して発生するリンパ浮腫の病態生理、症状マネジメント、アセスメント法 ・リンパ浮腫に対する弾性包帯、複合的ドレナージの適用判断およびドレナージ実技演習			
3. 教科書、参考書			

<p>講義の中で適宜紹介する。</p>
<p>4. 成績評価方法 講義・ゼミへの取り組み状況 20%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 50%、レポート 30%で総合的に評価する。</p>
<p>5. 受講要件 「緩和ケア論」を履修済みの者、がん看護専門看護師コースの学生は必修</p>
<p>6. 社会人学生に対する配慮 相談があれば個別に対応する。</p>
<p>7. その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。・ 状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。